

特定疾患治療研究事業データによる 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)発生状況の把握

研究分担者: 国立感染症研究所感染症情報センター 多田有希

2012年までに麻疹排除
することが国家目標とし
て設定されている。



SSPEは麻疹の罹患により発生
する疾患であり、麻疹患者数に
終わらず、その後SSPE発生の
なくなることの確認が重要

難治性疾患である。



診療・療養に役立つ疫学状況、
臨床情報などを把握が重要

現状は、小児慢性特定疾患治療研究事業及び特定疾患治療研
究事業の対象として、ある程度の状況/情報把握は可能。
しかし、情報の欠落や、折角の情報の分散により、発生数を含
め、必要な情報の把握が不十分な状況。

国レベルでの一貫したサーベイランス制度の確立が必要

制度確立の必要性を説くためにも、本研究において、他の研究分
担者とともにアンケート調査等により、発生数等のSSPEの現状をで
きる限り正確に把握する。